

土地分類基本調査

「谷 汲」

5 万分の 1

国 土 調 査

岐 阜 県

1 9 9 3

序 文

この調査は、国土調査法に基づき国土の開発及び保全並びにその利用の高度化に資するために国土の実態を科学的かつ総合的に調査したものです。

本書は、平成3年度から平成4年度にかけて調査した5万分の1地形図「谷汲」について「谷汲」図幅として、取りまとめたものです。

この調査の実施に当たって協力いただいた関係各位に対し深く感謝申し上げますとともに、この成果が今後、県土の秩序ある発展を図るための企画・立案の基礎資料として広く活用されることを希望します。

平成6年3月

岐阜県企画部長 額 額 正彦

ま え が き

1. 本調査は、岐阜県が国土庁土地局国土調査課の指導を得て、実施したものです。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿です。
3. 本調査の実施、成果の作成機関及び担当者は、下記のとおりです。

記

総括	岐阜県企画部地域振興課				
調査機関					
地形分類調査	岐阜大学教育学部	教 授	関根	清	
表層地質調査	〃	教 授	梶田	澄雄	
	〃	助 教 授	小井土	由光	
土 壤 調 査	岐阜県農業総合 研究センター	主任専門研究員	山田	偉雄	
	岐阜県林業センター	主任専門研究員	中川	一	
	〃	主 任 技 師	川尻	秀樹	
	〃	主 任 技 師	茂木	靖和	
土 地 利 用 現 況 調 査	岐阜大学農学部	教 授	綱本	皓二	

目 次

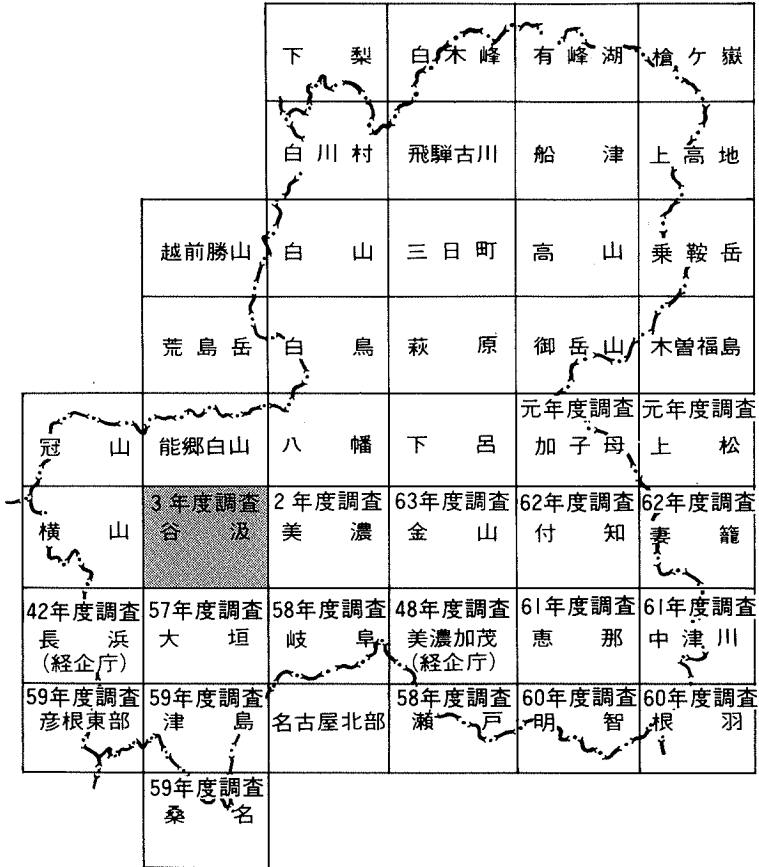
総 論

I 位置および行政区画	1
II 人 口	2
III 産 業	4

各 論

I 地 形 分 類	9
II 表 層 地 質	15
III 土 壤	20
IV 土地利用現況	34

位置図



総

論

I 位置および行政区画

1. 位置

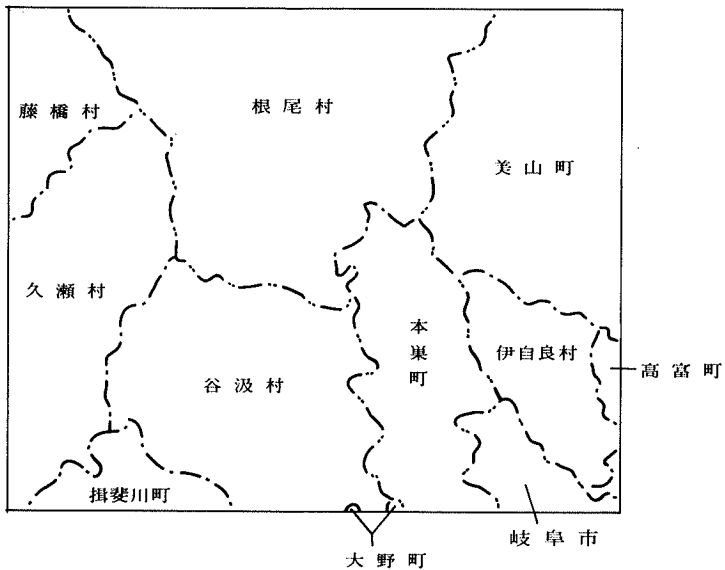
この調査の対象地域は建設省国土地理院発行5万分の1地形図の「谷汲」図幅である。

経緯度は、東経 $136^{\circ} 30'$ ~ $136^{\circ} 45'$ 、北緯 $35^{\circ} 30'$ ~ $35^{\circ} 40'$ の範囲である。

2. 行政区画

本図幅の行政区域は、岐阜市、揖斐川町、谷汲村、大野町、久瀬村、藤橋村、本巣町、根尾村、高富町、伊自良村、美山町の1市5町5村からなっている。(図-1 参照)

図-1 行政区画図



Ⅱ 人 口

調査区域にかかる1市5町5村の人口は499,769人（平成2年国勢調査）で県人口の24.2%を占めている。

これらの市町村では、昭和50年から平成2年までに約9,800人増加しており2.0%の増加となっているが、県平均10.6%を大きく下回っている。

このうち、藤橋村の人口が急減しているのは、徳山ダムの建設に伴い全村民離村となった徳山村が昭和62年に藤橋村に合併されたため、表一1では、

表一1 人口

行政区分	昭和50年		昭和55年		昭和60年	
	人口 (人)	世帯数 (戸)	人口 (人)	世帯数 (戸)	人口 (人)	世帯数 (戸)
岐阜市	408,707	116,436	410,357	124,497	411,743	127,481
揖斐川町	18,205	4,545	19,154	4,846	19,628	4,927
谷汲村	4,537	1,010	4,502	1,049	4,408	1,032
大野町	17,173	4,089	19,127	4,648	20,342	4,929
久瀬村	1,983	543	1,897	547	1,766	522
藤橋村	2,021	726	1,946	847	1,087	494
本巣町	6,003	1,453	6,036	1,567	7,465	1,879
根尾村	3,363	922	3,202	990	3,005	941
高富町	13,838	3,390	15,871	4,067	17,117	4,421
伊自良村	2,981	637	2,966	692	2,968	693
美山町	11,167	2,730	10,832	2,778	10,507	2,742
計	489,978	136,481	495,890	146,528	500,036	150,061
県計	1,867,978	483,766	1,960,107	539,740	2,028,536	567,946

昭和50年から昭和60年の旧徳山村分の数値を藤橋村に加えていることによるものである。

その他の市町村の中で、人口増加の著しい市町村は、大野町、本巢町及び高富町であるが、岐阜市、大垣市のベッドタウンとしての人口増加の他、本巢町については前述の徳山村からの移転があったことも影響している。

また、久瀬村、根尾村、美山町では、昭和50年から平成2年までに10%以上の人口減少がみられ、過疎化が進んでいる。(表-1)

平成2年		人口増減(人)			人口増減率(%)		
人口(人)	世帯数(戸)	50~55年	55~60年	60~2年	50~55年	55~60年	60~2年
410,324	133,726	1,650	1,386	△1,419	0.4	0.3	△ 0.3
19,831	5,157	949	474	203	5.2	2.5	1.0
4,147	1,011	△ 35	△ 94	△ 261	△ 0.8	△ 2.1	△ 5.9
21,044	5,277	1,954	1,215	702	11.4	6.4	3.5
1,702	497	△ 86	△ 131	△ 64	△ 4.3	△ 6.9	△ 3.6
422	181	△ 75	△ 859	△ 665	△ 3.7	△ 44.1	△ 61.2
8,331	2,162	33	1,429	866	0.5	23.7	11.6
2,979	1,176	△ 161	△ 197	△ 26	△ 4.8	△ 6.2	△ 0.9
17,931	4,775	2,033	1,246	814	14.7	7.9	4.8
3,043	695	△ 15	2	75	△ 0.5	0.1	2.5
10,015	2,685	△ 335	△ 325	△ 492	△ 3.0	△ 3.0	△ 4.7
499,769	157,342	5,912	4,146	△ 267	1.2	0.8	△ 0.1
2,066,569	602,906	92,129	68,429	38,033	4.9	3.5	1.9

資料 国勢調査結果による

(昭和50年から60年までの藤橋村の数値には、旧徳山村分を含めている。)

Ⅲ 産 業

1 農林業

地域内の市町村の総農家数は、15,871戸で、これは県下総農家数の16.0%にあたり、専業農家の割合は県平均とほぼ同率の4.3%となっている。

また、経営耕地面積は、9,500haで県下総耕地面積の14.3%を占め、農業粗生産額は、県下全体の17.3%となっている。

この地域の農業粗生産額の生産種別構成を県下全体と比較すると、米がやや低く、畜産及びその他がやや高くなっている。市町村別の特色をみると谷汲村、高富町、伊自良村で養鶏、美山町では養豚を中心とする畜産の構成比が高く、大野町、本巣町では富有柿を中心とした果樹、揖斐川町では茶の構成比が高くなっている。(表-2)

表-2 農業の概要

区分 行政 区域	農 家 数				経営耕 地面積 (ha)	農業粗生産額 (百万円)				
	総 数 (戸)	専業 (戸)	兼 業 (戸)	専業率 (%)		総 額	米	野菜	畜産	その他
岐 阜 市	8,214	344	7,870	4.2	4,400	14,872	3,223	4,586	5,357	1,706
揖斐川町	1,623	52	1,571	3.2	1,050	2,109	873	187	465	584
谷 汲 村	620	34	586	5.5	518	1,129	324	73	660	72
大 野 町	1,684	89	1,595	5.3	1,370	3,596	993	395	740	1,468
久 瀬 村	291	19	272	6.5	148	116	60	26	5	25
藤 橋 村	37	4	33	10.8	17	18	7	8	-	3
本 巣 町	781	47	734	6.0	483	1,219	367	294	337	221
根 尾 村	424	14	410	3.3	188	236	106	48	48	34
高 富 町	1,193	22	1,171	1.8	688	1,406	525	174	631	76
伊自良村	420	35	385	8.3	344	1,511	192	260	976	83
美 山 町	584	18	566	3.1	294	578	125	70	335	48
計	15,871	678	15,193	4.3	9,500	26,790	6,795	6,121	9,554	4,320
県 計	99,394	4,335	95,059	4.4	66,400	155,088	47,049	36,433	50,266	21,340

資料 岐阜県農林水産統計年報 (平成4～5年) による

(農家数は、「1990年世界農林業センサス」結果による)

(兼業農家には、自給的農家を含んでいる。)

林業については、地域内の市町村の林野面積が106,824haで県下林野面積の12.3%を占めている。

また、民有林の比率は92.0%と県平均の79.0%を大きく上回っているが、民有林のうち人工林の比率は、美山町、谷汲村、大野町で県平均を上回っているものの、その他の市町村では低く、この地域全体では県平均の43.5%を2割程度下回っている。

(表一3)

表一3 林業の概要

区分 行政 区域	林 野 面 積 (ha)				林 家 数 (戸)
	総 数	国 有 林	公 有 林	私 有 林	
岐 阜 市	6,248	224	171	5,853	4,679
揖 斐 川 町	2,253	121	488	1,644	449
谷 汲 村	6,190	12	523	5,655	414
大 野 町	569	-	2	567	184
久 瀬 村	8,923	163	1,536	7,224	317
藤 橋 村	31,518	2,478	4,937	24,103	66
本 巢 町	3,866	31	63	3,772	377
根 尾 村	28,482	4,893	396	23,193	584
高 富 町	2,442	-	4	2,438	659
伊 自 良 村	1,803	-	38	1,765	118
美 山 町	14,530	656	679	13,195	935
計	106,824	8,578	8,837	89,409	8,782
県 計	869,868	182,365	70,169	617,334	64,537

資料 平成3年度岐阜県林業統計書による

林家数は、「1990世界農林業センサス、林業事業者調査」の結果による

2 工 業

この地域の事業所数は、県下総数の20.4%にあたる5,359事業所であり、従業員数は42,760人で県総数の14.8%となっている。

年間製造品出荷額は7,479億円で県全体の12.6%となっているが、岐阜市がその約7割を占めている。

この地域の事業所当たりの平均従業員数は、8.0人であり、県平均の11.0人を3割程度下回っており、比較的規模の小さい事業所が多いといえる。

また、従業員一人当たりの年間製造品出荷額も1,749万円で県平均の2,054万円を15%程度下回っている。 (表—4)

表—4 工業の概要

区分 行政 区域	事 業 所 数				従 業 者 数 (人)			年間製造品 出荷額等 (百万円)
	総 数	会 社	組合その 他の法人	個 人	総 数	常 用 者 労 働 者	個人事業 主及び家 族従業員	
岐阜市	4,113	1,346	100	2,667	31,730	27,544	4,186	545,167
揖斐川町	180	52	1	127	2,059	1,842	217	28,282
谷汲村	32	15	-	17	355	323	32	3,939
大野町	189	79	2	108	2,955	2,802	153	69,883
久瀬村	12	4	-	8	77	*	*	805
藤橋村	4	3	-	1	40	*	*	541
本巢町	86	26	1	59	955	885	70	28,150
根尾村	21	8	-	13	191	171	20	2,149
高富町	247	63	4	180	1,692	1,387	305	23,711
伊自良村	71	15	-	56	339	275	64	6,983
美山町	404	67	2	335	2,367	1,798	569	38,279
計	5,359	1,678	110	3,571	42,760	37,027	5,616	747,889
県 計	26,219	9,211	280	16,728	288,173	261,139	27,034	5,919,273

資料 平成4年工業統計調査結果による

3 商 業

商店数は、11,374店舗で県下総商店数の30.5%、年間販売額は2兆8,547億円で県全体の43.8%となっており、岐阜市がそのほとんどを占めている。

この地域の従業員一人当たりの年間販売額をみると、4,720万円で県平均の3,627万円を3割程度上回るが、岐阜市を除く町村では、1,680万円であり、県平均を大きく下回っている。

(表—5)

表—5 商業の概要

区 分 行政 区域	商 店 数			従 業 者 数 (人)	年 間 販 売 額 (百万円)
	総 数	卸 売 業	小 売 業		
岐 阜 市	10,121	3,674	6,447	56,609	2,789,705
揖 斐 川 町	391	39	352	1,278	20,940
谷 汲 村	67	5	62	122	969
大 野 町	258	31	227	919	16,904
久 瀬 村	20	-	20	31	198
藤 橋 村	5	-	5	9	38
本 巢 町	83	6	77	226	3,300
根 尾 村	50	1	49	154	1,868
高 富 町	192	22	170	621	10,822
伊 自 良 村	30	3	27	78	1,555
美 山 町	157	18	139	429	8,375
計	11,374	3,799	7,575	60,476	2,854,674
県 計	37,346	8,837	28,498	179,844	6,515,201

資料 平成3年商業統計調査結果による（代理商・仲立業を除く）

各

論

I 地 形 分 類

1 地形概説

本地域は大局的には富山から伊勢湾に至る曲降性の凹地部の南西端に位置しているが、微視的には美濃越前山地の南部と濃尾平野の北西端との会合部の地域に当たる。本地域の山地や河谷は中部地方の地殻運動や断層運動の特徴を反映して、全体的には北西～南東、北東～南西方向及び南北方向に配列する特徴を有している。美濃越前山地は一般的には壮年期の定高性の山地を形成すると言われているものの、南端部の山地は適応単位丘的な孤立化の顕著な丘陵性山地を形成している。

本地域の山地は主に中・古生界の砂岩、頁岩、泥岩、チャートなどの互層からなる。地質構造を反映して、風化・侵蝕に対する抵抗性の差異に起因した組織地形の一部がみられる。これらの組織地形は稜部と凹部が交互に配列し、局部的には舟窪状の形態を示す数個の地形単位から成り立つが、本図幅内にはこれらの内の南西端部が位置している。

また、本図幅の山地には地震災害的観点からは危険度A級の左横ズレの活断層である根尾谷断層や武儀川断層の主要部が位置している。明治24年10月、この山地内の根尾谷から濃尾平野を突然襲った地震断層は各地で濃尾地震を発生させ大被害をもたらした。これが根尾谷断層系の最も新しい地震断層である。従って、本図幅内には根尾谷断層系の活断層がもたらした断層地形やこれに類する地形及び地形的断層線を想定させるリニアメントが卓越している。

本図幅内の南端部は美濃越前山地と長良川水系の山地と、沖積平野である濃尾平野への移行部に位置するために、揖斐川水系と長良川水系の伊自良川との形成による沖積平野が一部分布する。

大河川が内湾に流入するようなところに形成された沖積平野には、これを構成する全ての地形がみられる場合が多い。濃尾平野はこのような沖積平野の典型例でもあるので、扇状地帯域、自然堤防と後背湿地の卓越する帯域、三角州帯域の地形域からなり、各地形域は複数の単位地形から成り立っている。

る。本図幅の南東端部に位置する伊自良川の沖積平野にもまた、小規模ながら扇状地帯域及び、自然堤防と後背湿地の卓越する帯域からなる両地形域が認められる。このうち後者の後背湿地からなる地域は往時から洪水時の水害常襲地として人間の居住空間からは取り残されてきた。

また、本図幅の山地内には断層起因の山間小谷底と考えられる地形が存在するが、これらの地形には有機物に富んだ泥質堆積物（軟弱層）が厚く堆積している場合が多い。

2 山 地

本地域は上述したように富山から伊勢湾に至る地域に分布する曲降性の山地である美濃越前山地の南端部に位置し、山地内の河谷は中部地方の断層運動の特徴を反映して、全体的には北西～南東、北東～南西方向及び南北方向に流れる特徴を有する。このために、本図幅内の美濃越前山地はこれらの河谷によって区分された小山塊に細分される。

ここでは、本図幅内の山地を便宜的に、美濃越前山地、谷汲山地、伊自良山地、春日山地の名称を用いて細分した。

- (1) 美濃越前山地の主要部からなる山地 ……………美濃越前山地 (Ia)
- (2) 揖斐川本流と根尾川にはさまれた美濃越前山地の南部山地 ……………谷汲山地 (Ib)
- (3) 根尾川と武儀川にはさまれた美濃越前山地の南部山地 ……………伊自良山地 (Ic)
- (4) 揖斐川と伊吹山地にはさまれた山地 ……………春日山地 (Id)

(1) 美濃越前山地 (Ia)

美濃越前山地は能郷白山(1,617m)を主峰とし、それらの頂稜部が海拔高度(1,200～1,400m)内外の定高性の壮年期山地で、日本海側と太平洋側との地形的・気候的分水嶺を形成している山地であるが、本図幅にはそのうちの南部の1,000m内外の山地が含まれている。山稜線や河谷の方向は北西～南東と北東～南西方向のものが卓越している。

(2) 谷汲山地 (Ib)

ここでは便宜的に揖斐川本流と根尾川にはさまれた山地を谷汲山地とする。南端部は高度400m以下の丘陵性山地からなるが、北西方向に向けて高度を増加させ、北西部で高度約1,200mになる山地である。南東端の山地は石灰岩からなるために、採掘され、著しく人工的改変が進んでいる。

この山地の南端部は断層やその後の侵蝕によって小丘陵化が進んだ山塊であり、変化に富んだ山麓線を形成している。この複雑な山麓線と揖斐川、根尾川の形成した台地（扇状地）との間には軟弱地盤からなる地形が認められる。また、断層起因と考えなければならない幅広い谷底平野や山間小谷底の地形が多数存在し、深坂（谷汲村）なる地名からも判断されるように、湧水や建設した道路までもが地盤沈下するような有機物に富んだ泥質の軟弱地盤からなる地形が顕著に認められる。

(3) 伊自良山地 (Ic)

伊自良山地は根尾川、武儀川によって境された美濃越前山地の南端部の山地である。行政単位的には、本巢郡、山県郡と岐阜市に位置している。この山地は北西～南東方向に向かって高度を漸減する約700m以下の山地である。選択侵蝕に起因した組織地形がみられる山地であるが、北西～南東、北東～南西方向に卓越した地形的、地質的弱線によって細分された小山塊化の進んだ山地でもある。このうち前者の地形的、地質的弱線が根尾谷断層や武儀川断層に起因した弱線であり、後者がこれらの共役断層に起因した弱線と考えられる。三角末端面などの活断層地形が北西～南東方向に顕著に配列している。

金原においては根尾谷断層が左横ズレ断層であることを推定させる、長さ約2kmにわたる金原谷の横ズレ現象がみられ、金原集落はこの断層で形成された風隙（ウインドギャップ）の地形上に位置している。この観点に立てば現在の金原谷は河川争奪によってその流路を変えたことになる。

金坂峠から鹿穴峠にかけての本巢郡木倉、外山付近では複雑のオフセットストリウムが認められる。

(4) 春日山地 (Id)

伊吹山地と揖斐川にはさまれ、春日村、垂井町、揖斐川町、池田町にまたがる南北稜の山地である。地質的には中・古生界の砂岩、チャート、粘板岩と石灰岩などからなる山地であるが、この山地を粕川は直角方向に下刻し、横谷を形成して東流し、濃尾平野で揖斐川に合流している。

この山地は小島山、池田山など、高度800～900m付近に平頂峰をもつ定高性山地の特徴を示しているが、山腹斜面は30度以上の急斜面からなるところが多い。起伏量的には400～700m/km²になる。

この山地の東端は高度差数100mの急峻な池田山断層崖を形成して濃尾平野に落ち込んでいる。この急斜面には断層を想定させるリニアメントや三角末端面などの活断層地形が存在する。

この山地の南東部を北東から南西方向に位置する断層線（梅谷越え沿いの断層）以南の山地は石灰岩からなり、赤坂へ向かって山地は人工的に著しく改変されている。

3 台地

本図幅の台地は揖斐川本流、根尾川、武儀川沿いの山間地内に分布する河岸段丘と、断層起因の谷底に堆積した小規模扇状地（含む、沖積錐）などの地形からなる砂礫台地である。これらの台地は数段の河岸段丘と扇状地からなる。

ここではこれらの台地の便宜的に次のように呼称することとする。

- (1) 武儀川河谷内の河岸段丘・扇状地からなる台地……………武儀川台地 (II a)
- (2) 根尾川河谷内の河岸段丘・扇状地からなる台地……………根尾川台地 (II b)
- (3) 揖斐川河谷内の河岸段丘・扇状地からなる台地……………揖斐川台地 (II c)

(1) 武儀川台地 (II a)

この台地は武儀川上流域から中流域にかけて分布する2段の河岸段丘からなる台地である。このうちの上流域が本図幅に位置する。

(2) 根尾川台地 (Ⅱb)

この台地は美濃越前山地内に位置する、根尾川の上流域から中流域の河谷内に分布する、3段の河岸段丘と扇状地からなる台地である。濃尾地震の地震断層による地形変化は著しく、根尾谷全域にわたるが、金原から以北の地域において顕著であった。とりわけ、水鳥においては現河床が三角形に隆起し、三角台地なる疑似的な段丘地形を誕生させた。水鳥の集落がのる地形面がこの三角台地である。この三角台地の北西端には西光寺が位置し、この寺の裏には変動地形である小丘が存在する。この小丘の形成過程は複雑であり、この三角台地の形成機構や中段段丘との関係からこの小丘の形成過程を考えると水鳥付近の地域が、いかに複雑に地震断層と絡み合ってきたかが理解されるだろう。このことについては村松 (1976)、関根・奥田 (1977) が触れている。

(3) 揖斐川台地 (Ⅱc)

この台地は美濃越前山地の揖斐川河谷内に形成され河岸段丘と扇状地からなる台地である。本図幅の北西端と南西端に一部位置している。

4 低地

本図幅には長良川水系の伊自良川によって形成された沖積低地のうちの、扇状地帯域、自然堤防と後背湿地の卓越する帯域の一部が位置している。

ここでは、前者を伊自良川上流部低地 (Ⅲa)、後者を伊自良川中・下流部低地 (Ⅲb) と呼称することとする。

(1) 伊自良川上流部低地 (Ⅲa)

この低地は伊自良川低地内の扇状地帯域からなる地域である。河床は砂礫床からなるために降雨時を除いて、河川水の大半は伏流するために涸れ川の区間が広がり、扇端部で湧水している。

根尾谷断層から乗換えた梅原断層が、この低地の上端を北西から南東方向に通過していることもあって、河川規模に比べて広い谷底平野を形成してい

る。

(2) 伊自良川中・下流部低地 (Ⅲb)

この低地は伊自良川低地内の自然堤防と後背湿地の卓越する帯域からなる地域である。本図幅にはこの内の一部が位置している。

5 参考文献

- 1) 井関弘太郎・守屋以智雄 (1968) : 根尾谷断層に関する資料、地学雑、
vol.77、31~41
- 2) 関根 清・奥田孝男 (1977) : 根尾谷の地形について、岐阜大学教育
研報 一自然科学一、6-1、71~85
- 3) 村松郁栄 (1976) : 根尾谷断層と濃尾地震、地質学論集、12、117~127

Ⅱ 表層地質

1 表層地質概説

本図幅地域に最も広く分布しているのは固結堆積物の美濃帯中・古生層であるが、地質構造の違いによって幾つかの地質単位に分けられる。根尾村天神堂から尾並坂峠を経て美山町谷合にいたる断層（武儀川断層）、根尾村天神堂から根尾村水鳥・本巢町外山を経て高富町梅原にいたる断層（根尾谷断層）、久瀬村西津汲から谷汲村名札をとおる断層（谷汲断層）などにかこまれたブロックはそれぞれ異なった地質構造と異なる岩相よりなっている。

武儀川断層より北西部のブロックの泥質岩や砂岩は、露頭では北西西一南東東の走向で北東に急傾斜することが多いが、全体としての傾斜は緩やかである。図幅北東隅の船伏山や神崎・円原付近の地形的高所には石灰岩が広く分布する。一部ドロマイトになっており採掘されている。この石灰岩に含まれる化石は古生代二疊紀のものであるが見掛上下位の他の岩層からは中生代の化石が産出する。したがってこの間には衝上断層があることになる。このような関係は図幅内にはいたる所にあり、本来は断層として図示しなければならないが、この地質図では岩層分布を表示するのが主たる目的であるのと、そのような関係が明らかに認められる場合と、そうでない場合との区別が困難なことが多いので明示しなかった。

武儀川断層と根尾谷断層に挟まれたブロックには地形的高所にほぼ水平にチャートが分布している。このチャートは東隣的美濃図幅に同様の分布をするチャートの連続で、さらに北隣の能郷白山図幅にも連続する。見掛上下位の泥質岩層に衝上している。

根尾谷断層と谷汲断層に挟まれるブロックの魚金山・西台山付近の地形的高所には石灰岩とそれに密接に伴う玄武岩および火山性碎屑岩が分布する。

分布の様子からみてこれらが向斜構造を保ちながら泥質岩を主体とする岩層の上に衝上していることが読み取れる。

谷汲断層の南側のチャートの明瞭な向斜構造が認められる。このほか石灰岩の広い分布もあることからして、幾多の衝上断層の存在が考えられる。

これらの衝上岩体を除いてみると図幅の南に向かって砂質岩の量が多くなる傾向がある。

地質構造で特筆されるのは根尾谷断層である。図幅に示されるように、この断層は地質の分布にも大きく関与している。

1991年10月28日発生した濃尾地震時に変位し、地震の原因となったのは本図幅内では根尾谷断層の、根尾村天神堂から本巢町金原までの間だけでありそれより南東延長には及んでいない。それより南東方向では、金原より南東方向に高富町梅原を経て図幅外の関市に至る断層（梅原断層）が変位し、いわゆる「乗りかえ現象」が見られる。

2 表層地質細説

(1) 未固結堆積物

a) 礫がち堆積物 (g₁)

河川に沿って分布する沖積層である。濃尾平野の北東縁に近い本図幅地域の南縁部では、その分布がやや広い。ほとんどが耕作地あるいは宅地として利用されている。礫と砂からなる。

はなはだやわらかい。

b) 礫がち堆積物 (g₂)

揖斐川・根尾川・武儀川・神崎川の沿岸に発達している。

河川に沿って分布する段丘堆積物である。段丘面と現河床面との高度差は数m～数10mである。礫と砂からなる。

礫はかたいが堆積物全体としてはやわらかい。

b) 碎屑物 (cl)

各河川の支谷を埋め立てている崖錐堆積物である。大量出水の際形成されたもので、傾斜地を形成している。淘汰の悪い角礫・砂・粘土からなる。

やわらかい。

(2) 固結堆積物

a) 砂岩 (ss)

他の固結堆積物に比べ分布が狭い。武儀川断層の北側に断層に沿うように分布するものと、図幅南縁地域に北西西—南東東の走向で散在するものがある。塊状・粗粒砂岩だけの部分もあるが、多くは泥質岩と互層する。砂岩の多いものを一括して示した。

本来「はなはだかたい」岩石であるが風化が進みもろくなっていることがある。

b) 泥質岩 (sh)

図幅内では最大の分布をしている。頁岩・砂岩互層の頁岩優勢層が多く、均質な泥質岩は少ない。図幅に図示できるほどの規模のチャートの薄層を挟むことが多い。また「玄武岩および火山性碎屑岩」およびレンズ状の石灰岩を挟む場合や、珪質のものもあり、同一色で着色したが、それぞれ異なる地質単位と考えざるを得ない。

本来はなはだかたい岩石であるが風化が進み非常にもろくなっていることが多い。

c) 珪質岩 (ch)

武儀川断層と根尾谷断層に挟まれるブロックに分布する地形的高所にほぼ水平の基底を持ち広範囲に分布するもの、泥質岩中に挟まれる形で帯状に分布するもの、石灰岩・「玄武岩および火山性碎屑岩」と密接な関係をもって分布するものがある。厚さ3～5cmの層が薄い泥質部を挟んでくりかえす層状チャートが多く、小褶曲をすることが多い。

はなはだかたく、急峻な地形を形成することが多い。

d) メランジ (ms)

泥質の基質中に砂岩・チャートなどのブロックが雑然と入っているものをメランジとして一括した。成因的に異なるものもあるが、大半は海底地滑り

による砂岩・泥岩互層の破壊されたものと考えられる。

本来はなはだかたい岩石であるが風化が進みもろくなっていることが多い。

e) 石灰岩 (ls)

図幅北東隅、船伏山・円原付近、根尾村魚金山・西台山付近、大野町山口、久瀬村西津汲付近に広い分布が見られる。石灰岩はセメント・石灰の原料として重要である。石灰岩中には古生代ペルム紀の化石が多く含まれるが周囲の他岩層からは中生代の化石しか見出されないことが殆どである。したがって石灰岩層と他岩層とは断層で接していることになる。

はなはだかたい。

f) 玄武岩および火山性碎屑岩 (sch)

かつての大洋底に噴出した玄武岩および火山性碎屑岩の残片と考えられている。緑灰色のことがおおく、かつては輝緑凝灰岩と呼ばれていた。現在ではその色調から単に緑色岩と呼ぶことが多い。石灰岩と密接に伴って産出することが多い。

本来「はなはだかたい」岩石であるが風化が進みもろくなっていることが多い。

(4) 深成岩

a) 花崗斑岩 (Gp)

図幅北東部に北西西—南東東方向に点在している。閃緑ひん岩、石英斑岩等を一括して示した。

はなはだかたい。

3 資料

図幅作成にあたって直接引用したもののみをあげる。関係する文献は資料5) に詳しい。

- 1) 松田時彦 (1974) 1891年濃尾地震の地震断層. 東大地震研究速報 no. 13,p.85-126.
- 2) Mizutani, S. (1964) Superficial folding of the Paleozoic system of central Japan. Jour. Earth Sci. Nagoya Univ., vol.12,p.17-83.
- 3) 大塚韶三・金田利通 (1965) 岐阜県揖斐郡小津付近の上部古生界について 目白学園女子短大研究紀要. vol.2,p.29-32.
- 4) 斎藤 誠 (1989) 美濃帯西部岐阜県谷汲地域のジュラ紀メランジェ・地質雑、vol.95,p.7-20.
- 5) 脇田幸二 (1991) 谷汲地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1図幅) 地質調査所、53P.
- 6) 山本博文 (1985) 根尾南部地域および伊吹山地域の美濃帯中・古生層. vol.91,p.353-369.

Ⅲ 土 壤

林 地 土 壤

本図幅の地形は、北部、西部では山地の尾根が標高約1,000mと高く連なり、南部、西部では濃尾平野部の周辺部に位置し、標高約100mと低くなる。北部、西部には起伏量の大きい美濃山地が分布し、東南部には起伏量の少ない西美濃丘陵、美濃高地が分布する。美濃山地の北西には、図幅で最も標高の高い花房山1,189mがある。河川は、図幅の中央部を根尾川が南に流下する。東部では長良川水系の武儀川、伊自良川がほぼ南東に流下する。西部では揖斐川が南に流下する。

地質は、主に中生界の堆積岩が広く分布する。図幅のほぼ中央部には、北西から東南方向に根尾谷断層が走る。

本図幅に出現する土壌は、地形、地質構造と密接な関係を示し、表-1土壌統一覧表のとおり5土壌群、10土壌統群に分けられる。褐色森林土が広く分布し、大部分の面積を占める。岩石地は、チャート等の露岩地に分布する。岩屑土は、チャート等の急傾斜な岩盤の下部に分布する。黒ボク土は、山頂、山麓の緩斜面に分布する。ポドゾルは、標高約1,000mを越える山地の尾根に分布する。

1 岩石地

岩石地は、崩壊地やチャート、石灰岩等の露岩地である。植生は、貧弱でネジキ、ススキ、ウツギ、ベニドウダン、ウスノキ、リョウブ等が散生する。図幅全体に小面積分布する。

2 岩屑土

岩屑土は、岩屑性土壌であり、チャート、石灰岩、泥質岩の崖錐下部に分布する。数十cmの角礫が厚く堆積する。植生は、疎林で、タニウツギ、リョウブ、クマイチゴ、クマノミズキ、ススキ等が生育する。図幅の西部に小面

積分布する。

3 黒ボク土

黒ボク土は、2 土壌統群あり、丘陵、山地の緩斜面に分布する。根尾谷断層及び谷汲村名札をほぼ東西に走る断層に沿った山麓緩斜面には、黒ボク土壌と淡色黒ボク土壌が対となって点在する。植生は、スギ、ヒノキ人工林が多い。下層植生は、アオキ、チャ、イヌツゲ、ヤマウルシ、トウゲシバ、コシアブラ、コアジサイ等が生育する。

(1) 黒ボク土壌

黒ボク土壌は、Bl_b(d)、Bl_b型土壌に相当する。A層は、30cm以上と厚く、明度1～2と黒い。A層で軟らかい団粒状構造を示すBl_b型土壌が多い。土性は壤土である。土壌生産力は高いが、ヒノキでは徳利病が発生することが多い。

(2) 淡色黒ボク土壌

淡色黒ボク土壌は、1 Bl_b (d)、1 Bl_b型土壌に相当し、典型的な黒ボク土壌よりもA層が淡色で、黒ボク土壌の近辺に分布することが多い。土性は壤土である。土壌生産力は高い。

4 褐色森林土

褐色森林土は、5 土壌統群あり、図幅の大部分を占める。乾性褐色森林土壌は、丘陵、山地の尾根、斜面上部に比較的広く分布する。乾性赤色系褐色森林土壌は、丘陵、山地の尾根に分布する。褐色森林土壌は、丘陵、山地の斜面に広く分布する。赤色系褐色森林土壌は、丘陵の緩斜面に分布する。湿性褐色森林土壌は、斜面下部、谷頭に分布する。

(1) 乾性褐色森林土壌

乾性褐色森林土壌は、B_A、B_B、B_C、型土壌に相当し、貝戸1統、曾木統の

2 統が分布する。土層上部は、乾性な細粒状、粒状、堅果状構造が発達する。生産力は低い。

植生は、曾木統ではアカマツ林、アカマツと広葉樹の混交林となることが多い。混交する上木は、コナラ、アベマキ、ソヨゴ、マンサク、リョウブ、ヒノキ等が生育する。下層植生は、モチツツジ、ヒサカキ、シャシャンボ、ネジキ、ウスノキ、ネズミサシ等が生育する。貝戸1 統では、アカマツ林または広葉樹林となることが多い。混交する上木は、コナラ、ミズナラ、タカノツメ、ヒノキ等である。下層植生は、ヤマツツジ、シロモジ、イヌツゲ、ウリカエデ、コハウチワカエデ等が生育する。

① 貝戸1 統

主に中生界の砂岩、泥質岩、チャート等を母材として、山地の尾根に分布する残積性の土壌である。A_o層は、L、F、H層が厚く発達する。A、B層が堅果状構造のよく発達するB_c型土壌が多い。土性は、壤土から埴壤土が多い。図幅の全体に分布する。

② 曾木統

主に中生界の砂岩、泥質岩、チャート等を母材として山地、丘陵の尾根、斜面上部に分布する残積性の土壌である。A_o層は、10cm以上と厚く、特にF、H層が厚く発達する。砂岩、泥質岩に分布する曾木統は、土層上部で粒状構造、堅果状構造が発達するB_B型土壌が多く分布する。チャートのヤセ尾根に分布する曾木統は、土層上部で細粒状構造の発達するB_A型土壌がよく発達し、とりわけ生産力が低い。丘陵地に分布する土壌は、赤色風化の影響により比較的赤色の強い土壌が斑状に出現することがある。土性は埴壤土が多い。図幅の東南部に分布する。

(2) 乾性赤色系褐色森林土壌

乾性赤色系褐色森林土壌は、rB_A、rB_B、rB_C型土壌に相当し、雨乞1 統が分布する。赤色風化（古期の温暖気候下で発生した）の影響からB層が赤

褐色である。土層の上部で乾性な細粒状、粒状、堅果状構造が発達することにより特色づけられる。生産力が非常に低い土壌である。

植生は、主にアカマツ林である。上木は、ヒノキ、コナラ、タカノツメが混交する。下層植生は、モチツツジ、ヒノキ、ソヨゴ、アセビ、ウスノキ、ヤマウルシ、ヒサカキ等が生育する。

① 雨乞1統

主に中生界の砂岩、泥質岩、チャート之母材として、丘陵、山地の尾根に多く分布する残積性の土壌である。A₀層は厚く発達する。A層は薄く発達が悪く、しばしばA-B層となることが多い。土性は、埴壤土から埴土である。図幅の南部に小面積分布する。

(3) 褐色森林土壌

褐色森林土壌は、B_D、B_D(d)型土壌に相当し、貝戸2統、久田見統の2統が分布する。A層は、比較的厚く、団粒状構造が発達することが多い。生産力は高い。

植生は、天然広葉樹林、スギ、ヒノキ人工林が多い。広葉樹林には、コナラ、ミズナラ、シデ類、ブナ、クリ、サクラ類等が生育する。下層植生は、ジュウモンジシダ、シャガ、マタタビ、フユイチゴ、イヌガヤ、イノモトソウ、ヤマブキ、イノコズチ、クロモジ等が生育する。

① 貝戸2統

主に中生界の砂岩、泥質岩、チャート、石灰岩を母材として、山地の斜面に分布する。A₀層は、薄く発達が悪い。A層は、斜面上部、中部で塊状構造、斜面下部で団粒状構造が発達することが多い。土性は埴壤土が多い。図幅全体に分布する。

② 久田見統

主に中生界の砂岩、泥質岩、チャートを母材として丘陵、山地の斜面に分

布する。A₀層は、ほとんど発達しない。A層は、塊状構造から団粒状構造が発達する。土性は、壤土から埴壤土が多い。図幅の東南部に分布する。

(4) 赤色系褐色森林土壌

赤色系褐色森林土壌は、rB_D、rB_D(d)型土壌に相当し、雨乞1統が分布する。

植生は、アカマツ天然林、スギ、ヒノキ人工林が多い。天然林の上木にコナラ、アベマキ、リョウブ、クリ、ホオノキ、ヤマザクラ等が生育する。下層植生は、ヒサカキ、シキミ、ショウジョウバカマ、フジ、ネザサ、フユイチゴ等が生育する。

① 雨乞2統

主に中生界の砂岩、チャートを母材として、丘陵の斜面下部に分布する土壌である。A₀層はあまり発達しない。A層は、塊状構造から団粒状構造で比較的薄い。B層は、赤色風化（古期の温暖気候下で発生した）の影響により赤褐色を呈する。土性は、埴壤土から埴土である。図幅の東南部に小面積分布する。

(5) 湿性褐色森林土壌

湿性褐色森林土壌は、B_E、B_F型土壌に相当するが、B_E型土壌が多い。A₀層は、F層がのみ薄く発達が悪い。A層は、団粒状構造で黒色が強く約30cm以上と厚く発達する。また、埋没土層が多く現れる。スギ、ヒノキの生産力は高いが、ヒノキでは徳利病が発生する。土性は、砂土から壤土である。

植生は、スギ人工林が多い。下層植生は、ヤマブキ、フサザクラ、キブシ、アカソ、シャガ等が生育する。図幅の東部に小面積分布する。

5 ポドゾル

ポドゾルは、A層に溶脱層、B層に集積層が認められる寒冷地の土壌で乾性ポドゾル化土壌があり、標高約1,000mを越える山地の尾根に分布する。乾

性ポドゾル化土壤は、P_{DB}、P_{DM}型土壤に相当する。A₀層は、気温が低く、尾根の乾燥地のため落葉落枝が分解し難く10cm以上と厚い。黒赤褐色のF、H層が発達する。A層に溶脱層が明らかに現れないP_{DM}土壤が多い。B層上部には、下部よりもやや黒色の強い、赤褐色の集積層が発達する。土性は壤土から埴壤土である。土壤の生産力は低い。

植生は、ブナ林またはブナとヒノキの混交林である。下層植生は、ホツツジ、ヒメアオキ、ナナカマド、アカミノイヌツゲ、エゾユズリハ、タムシバ、マンサク、イワウチワ、イチヤクソウ等が生育する。

表一 土壤統一覧表

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統	母 材	地 形
岩 石 地	岩 石 地	—	中生界堆積岩	—
岩 屑 土	岩 屑 性 土 壤	—	—	崖錐の下部
黒ボク土	黒ボク土壤	—	—	緩斜面
	淡色黒ボク土壤	—	—	斜面下部の緩斜面
褐色森林土	乾性 褐色森林土壤	貝戸1統	中生界堆積岩	山地尾根
		曾木統	中生界堆積岩	丘陵、山地の尾根、 斜面上部
	乾性赤色系 褐色森林土壤	雨乞1統	中生界堆積岩	丘陵、山地の尾根
		褐色森林土壤	貝戸2統	中生界堆積岩
	久田見統		中生界堆積岩	丘陵、山地の斜面
	赤色系 褐色森林土壤	雨乞2統	中生界堆積岩	丘陵の斜面中、下部
湿性褐色 森林土壤	—	—	山地斜面下部、谷頭	
ポドゾル	乾性 ポドゾル化土壤	—	—	山地の痩せ尾根

農 地 土 壤

1. 地域の概要

本地域は、岐阜県の北西部に位置し、岐阜市北部に隣接した伊自良村及び本巣町の大半及びこれらの地域の北・西に位置した美山町、根尾村、谷汲村の大半及び揖斐川町、久瀬村、藤橋村、高富町の一部からなっている。

農地では、長良川の支流の武儀川、伊自良川及び揖斐川とその支流の根尾川の流域に分布している。

土地の利用状況は、大部分が山林、原野によって占められ、全面積に占める農耕地の割合は、揖斐川町が22.3%、高富町17.9%、伊自良村14.0%、本巣町9.6%、谷汲村7.2%と県の平均6.3%以上であるが、美山町、久瀬村、根尾村は共に2%以下、藤橋村は0.1%にも満たない。

これら農地のうち、揖斐川や根尾川流域等の平坦部では水田として利用されている農地が80%と多いが、一方では、久瀬村、伊自良村、美山町等の山間部では50～60%と少ない。なお、根尾川流域の本巣町、谷汲村では岐阜特産の富有柿の栽培が、また、高富町、伊自良村では粟の栽培が特筆される。

土壌は、地形、地勢が複雑なため、多種類の土壌群が混在している。

水田土壌では、灰色低地土、グライ土、多湿黒ボク土が主体となっており、褐色低地土、泥炭土、黄色土も散在している。

畑地土壌では、褐色低地土、岩屑土が多く、次いで、黒ボク土が散在し、黄色土は一部地域に限られる。

2. 土壌統群の分布

岩屑土は美山町、根尾村、谷汲村、伊自良村、久瀬村の山麓傾斜地に散在し、畑地として利用されている。

畑地として利用されている黒ボク土は、表層多腐植質黒ボク土が多く、谷汲村、根尾村、美山町に、表層腐植質黒ボク土は揖斐川町に、厚層腐植質黒ボク土は久瀬村に散在している。

多湿黒ボク土は水田として利用されており、厚層腐植質多湿黒ボク土は揖

斐川町、谷汲村、根尾村、久瀬村に、表層腐植質多湿黒ボク土は主に谷汲村、本巢町に分布している。

黄色土のうち、水田に利用されている細粒黄色土・斑紋ありは、本巢町、美山町に、畑地に利用されている細粒黄色土、礫質黄色土はそれぞれ久瀬村、美山町の一部に散在している。

褐色低地土のうち一部が水田に利用されており、その大部分が細粒褐色低地土・斑紋ありで、谷汲村、久瀬村、伊自良村に、中粗粒褐色低地土・斑紋ありはわずかに伊自良村に分布する。大部分の褐色低地土は畑に利用されており、中粗粒褐色低地土・斑紋なし、礫質褐色低地土・斑紋なしの分布は多く、前者が伊自良村、根尾村、美山町に、後者が伊自良村に分布する。細粒褐色低地土・斑紋なしは本巢町、岐阜市に散在する。

水田に利用されている灰色低地土は、細粒灰色低地土・灰色系が岐阜市、揖斐川町、谷汲村、本巢町などに、礫質灰色低地土・灰色系は谷汲村、根尾村を中心として本巢町、岐阜市に、また、礫質灰色低地土・灰褐色系は揖斐川町、美山町に、また灰色低地土・下層有機質は岐阜市にそれぞれ分布する。灰色低地土・下層黒ボクは、わずかに谷汲村で見られる。

グライ土のうち、細粒強グライ土は岐阜市、揖斐川町、伊自良村に、粗粒強グライ土はわずかに伊自良村に、礫質強グライ土は本巢町、伊自良村に、細粒グライ土は高富町、伊自良村、本巢町に、また、中粗粒グライ土は本巢町、伊自良村に、グライ土・下層有機質は谷汲村に分布している。

黒泥土の分布は少なく、谷汲村の湿地帯に分布し、水田に利用されている。

3. 土壤群別細説

(1) 岩屑土 (01)

土性は、強粘質～壤質。30cm以内から砂礫層となり、山地・丘陵地斜面に分布する。排水は極めて良く、一般に土壌が浅く、桑園・樹園地等に利用されるが、表土の厚さ、有機物含量、養分の供給保持力等の面で欠陥が認められる。

(2) 黒ボク土 (03, 04, 05)

土性は、壤質～粘質。腐植含量は富む～頗る富む。母材は火山噴出物からできた土壤で、保肥力が低く、磷酸や塩基類が乏しい (03)。多湿黒ボク土 (04) は、台地凹部又は沖積低地凹部に分布し、不良な排水条件にできた土壤である。黒ボクグライ土 (05) は、多湿黒ボク土と同様にほぼ全層がグライ層で、下層にしばしば泥炭や黒泥が混在する。

(3) 黄色土 (10)

土性は、強粘質～壤質。腐植含量は少ない。土色は黄色味が強く、丘陵地に分布し、強酸性で塩基性に乏しい。この土壤は保肥力、養分供給力等に基本的な欠陥が認められる。

(4) 褐色低地土 (12)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質で変化が大きい。土色は、ほぼ全層が褐色を示し、微高地に分布し、排水が良く、腐植含量が少ない。

(5) 灰色低地土 (13)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質で変化が大きい。土色は、ほぼ全層が灰色又は灰褐色を示す。沖積地帯に分布するが、グライ土に比べて地下水位が低く、排水が良く、腐植含量が少ない。この土壤は保肥力が強くて養分供給能に富み、高い水稻生産力を示し、本県の水田土壤としてはかなり特異的である。

(6) グライ土 (14)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質で変化が大きい。土色は、青灰色で、グライ層が現れる位置で細分化される。沖積地帯に分布し、排水が悪く、腐植含量は一部を除いて少ない。

(7) 黒泥土 (15)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質で変化が大きい。表層の土色は、灰色～青灰色であり、排水不良の平坦や山間の低質地に分布する。土地利用は水田に限定されている。

4. 市町村別土壤統群面積一覽表

(1) 水田の部

市町村名	土壤群名	土 壤 統 群 名	土壤群番 号	分布面積 (ha)	備 考
岐 阜 市	灰色低地土	細粒灰色低地土、灰色系	1 3 0 6	1400	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。(当図幅にない土壤統は左記の記載を省いた。)
		中粗粒灰色低地土、灰色系	1 3 0 7	240	
		礫質灰色低地土、灰色系	1 3 1 0	88	
			1 3 1 2	31	
		灰色低地土、下層有機質	1 3 2 7	289	
	グライ土	細 粒 強 グ ラ イ 土	1 4 0 3	172	
		中 粗 粒 強 グ ラ イ 土	1 4 0 5	20	
中 粗 粒 グ ラ イ 土		1 4 2 1	122		
揖 斐 川 町	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0 4 0 9	130	同上
		表層腐植質多湿黒ボク土	0 4 3 7	66	
	灰色低地土	細粒灰色低地土、灰色系	1 3 0 3	143	
		礫質灰色低地土、褐色系	1 3 2 1	168	
	グライ土	細 粒 強 グ ラ イ 土	1 4 0 4	55	
		細 粒 グ ラ イ 土	1 4 1 8	16	
谷 汲 村	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0 4 0 9	29	同上
		表層腐植質多湿黒ボク土	0 4 3 2	8	
			0 4 3 3	13	
			0 4 3 5	25	
	褐色低地土	細粒褐色低地土、斑紋あり	1 2 1 0	52	
	灰色低地土	細粒灰色低地土、灰色系	1 3 0 6	44	
		中粗粒灰色低地土、灰色系	1 3 0 8	8	
		礫質灰色低地土、灰色系	1 3 1 2	106	
		灰色低地土、下層黒ボク	1 3 2 4	35	
	グライ土	礫 質 強 グ ラ イ 土	1 4 1 3	14	
		細 粒 グ ラ イ 土	1 4 1 8	8	

市町村名	土壌群名	土 壤 統 群 名	土 壤 群 番 号	分布面積 (ha)	備 考	
		グライ土、下層有機質	1428	45		
	黒 泥 土		1501	10		
			1502	14		
久 瀬 村	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0409	19	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。(当図幅にない土壌統は左記の記載を省いた。)	
		表層腐植質多湿黒ボク土	0433	3		
	褐色低地土	細粒褐色低地土、斑紋あり	1210	29		
	灰色低地土	中粗粒灰色低地土、灰色系	1308	27		
礫質灰色低地土、灰色系		1312	5			
藤 橋 村	多湿黒ボク土	表層腐植質多湿黒ボク土	0433	6	同上	
本 巢 町	多湿黒ボク土	表層腐植質多湿黒ボク土	0428	20	同上	
			0430	80		
	黄 色 土	細粒黄色土、斑紋あり	1017	40		
	灰色低地土	細粒灰色低地土、灰色系	1306	63		
			中粗粒灰色低地土、灰色系	1307		20
			礫質灰色低地土、灰色系	1311		20
	グ ラ イ 土	礫 質 強 グ ラ イ 土	1414	54		
			細 粒 グ ラ イ 土	1417		17
中 粗 粒 グ ラ イ 土			1421	23		
グライ土、下層有機物			1430	2		
黒 泥 土		1502	14			
根 尾 村	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0409	23	同上	
		表層腐植質多湿黒ボク土	0433	11		
	灰色低地土	中粗粒灰色低地土、灰色系	1308	15		
			礫質灰色低地土、灰色系	1310		2
			1311	8		
	1312	88				
高 富 町	グ ラ イ 土	細 粒 強 グ ラ イ 土	1403	90	同上	

市町村名	土壌群名	土 壌 統 群 名	土壌群番 号	分布面積 (ha)	備 考
		礫質強グライ土	1413	40	
		細粒グライ土	1419	50	
伊自良村	褐色低地土	細粒褐色低地土、斑紋あり	1210	2	
		中粗粒褐色低地土、斑紋あり	1213	2	
	灰色低地土	中粗粒灰色低地土、灰色系	1307	18	
		礫質灰色低地土、灰色系	1312	7	
		灰色低地土、下層有機質	1327	2	
	グライ土	細粒強グライ土	1401	48	
		中粗粒強グライ土	1405	6	
		礫質強グライ土	1413	29	
		細粒グライ土	1419	26	
		中粗粒グライ土	1412	20	
美山町	黄色土	細粒黄色土、斑紋あり	1017	10	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。(当図幅にない土壌統は左記の記載を省いた。)
	灰色低地土	礫質灰色低地土、灰色系	1321	31	
1322			33		

(1) 畑地の部

市町村名	土壌群名	土 壌 統 群 名	土壌群 番 号	分布面積 (ha)	備 考
岐阜市	岩 屑 土		0 1 0 1	95	当図幅における 分布面積は左記 の分布面積の一 部である。(当 図幅にない土壌 統は左記の記載 を省いた。)
	褐色低地土	細粒褐色低地土、斑紋なし	1 2 0 2	179	
揖斐川町	黒ボク土	表層腐植質黒ボク土	0 3 3 7	40	同上
谷汲村	岩 屑 土		0 1 0 1	50	同上
	黒ボク土	表層多腐植質黒ボク土	0 3 1 3	68	
久瀬村	岩 屑 土		0 1 0 1	15	同上
	黒ボク土	厚層腐植質黒ボク土	0 3 0 8	15	
		表層多腐植質黒ボク土	0 3 1 3	45	
	黄色土	細 粒 黄 色 土	1 0 0 3	19	
本巣町	褐色低地土	細粒褐色低地土、斑紋なし	1 2 0 1	20	同上
		礫質褐色低地土、斑紋なし	1 2 0 7	10	
根尾村	岩 屑 土		0 1 0 1	53	同上
	黒ボク土	表層多腐植質黒ボク土	0 3 1 3	15	
	褐色低地土	中粗粒褐色低地土、斑紋なし	1 2 0 3	15	
		礫質褐色低地土、斑紋なし	1 2 0 7	15	
高富町	岩 屑 土		0 1 0 1	20	同上
伊自良村	岩 屑 土		0 1 0 1	28	同上
	褐色低地土	中粗粒褐色低地土、斑紋なし	1 2 0 3	75	
		礫質褐色低地土、斑紋なし	1 2 0 6	97	
美山町	岩 屑 土		0 1 0 1	80	当図幅における 分布面積は左記 の分布面積の一 部である。(当 図幅にない土壌 統は左記の記載 を省いた。)
	黒ボク土	表層多腐植質黒ボク土	0 3 1 3	87	
	黄色土	礫 質 黄 色 土	1 0 1 3	18	
	褐色低地土	中粗粒褐色低地土、斑紋なし	1 2 0 3	19	

5. 資料

- (1) 岐阜県農業試験場（1968. 72～75）水田及び畑地土壤生産分級図
- (2) 岐阜県農業試験場環境部（1979）地力保全基本調査綜合成績書
- (3) 農業技術研究所化学部土壤第3科（1983）農耕地土壤の分類—土壤統
の設定基準及び土壤統一覧表（第2次案改訂版）—
- (4) 土壤保全調査事業全国協議会（1986）土壤断面をどう見るか
- (5) 東海農政局岐阜統計情報事務所（1992）岐阜農林水産統計年報 平成
3～4年
- (6) 福富敏雄（1991）岐阜県の耕地土壤の実態と改善対策

IV 土地利用現況

1 農 地

本図幅内には、揖斐川の支流である根尾川が図幅中央部を北から南に流れ、図幅西部を揖斐川及びその支川が流れている。また、長良川の支流である伊自良川、武儀川がそれぞれ南東部、北東部を流れている。

農地は、これらの河川及びその支川に沿った地域に分布しているが、まとまった地区は少なく、伊自良川沿いの伊自良村南部、谷汲村の徳積、深坂付近と揖斐川町北方付近にみられる程度である。

これらの農地のうち、平坦地帯では水田としての利用が大半であるが、中山間地帯では水田の他、畑、茶畑、果樹園が分布しており、果樹としては本巢町では岐阜県特産の富有柿、伊自良村では栗が主に栽培されている。

2 林 地

本図幅内の林野率は高く、久瀬村、藤橋村、根尾村、美山町の4町村で90%を越えている。

民有林の比率が地域内市町村で92%と高く、本図幅内でも国有林は、谷汲村、久瀬村、根尾村、本巢町に点在しているにすぎない。

人工林は、図幅北西部及び南東部に多く分布しており、植生はスギ、ヒノキで、図幅北西部でスギが多い。

天然林のうち広葉樹はコナラが多いが、図幅北部ではミズナラがやや多く分布している。また、針葉樹はほとんどがアカマツで、図幅南西部を中心に南部に多く分布しているが、マツノザイセンチュウ（松くい虫）による被害が広がっている。

林地の土地利用としては、岐阜市、大垣市に近いことから図幅南部で近年ゴルフ場の建設が進んでおり、将来的には本図幅内に6～7箇所が立地するものと予想されている。

3 市街地・集落等

本図幅中央部を北から南に流れる根尾川沿いに国道157号が走り、図幅中央北部から南東に国道418号が走っている。また、図幅南西端の揖斐川沿いには国道303号が走っており、集落はこれら国道の沿線と図幅南東部の伊自良川沿い、図幅中央南部の根尾川の支川である管瀬川沿いに形成されている。

鉄道は、大垣市と根尾村樽見を結ぶ第3セクターの樽見鉄道が図幅中央部の根尾川沿いに走っており、このうち本巣町神海から樽見間は、国鉄から第3セクター移行後の1989年3月に延長開業されたものである。国鉄時代に「採算悪化路線のワースト3」と呼ばれたこともあるこの路線も、沿線に大荷主のセメント企業があることや、数多くのイベント列車の成功によって開業2年目から黒字経営を続けている。また、図幅中央部には、岐阜市と谷汲村を結ぶ名鉄谷汲線が走っている。

1994年3月

印刷発行

岐阜県土地分類基本調査

「谷 汲」

発行 岐阜県企画部地域振興課

〒500-70 岐阜市藪田南2-1-1

電話 (0582) 72-1111

印刷 日新印刷株式会社

岐阜市蔵前2丁目3番1号